



超音波 内視鏡検査

超音波内視鏡検査について

一般的な超音波検査は体の外から超音波をあて、その反射を受信して画像にする検査です。

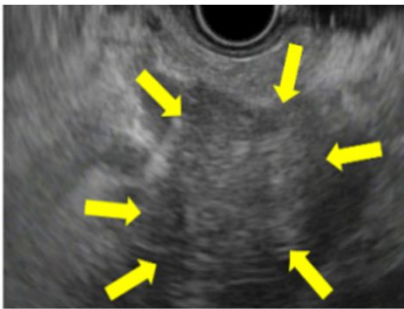
超音波検査のよい点は、超音波を当てると同時に画像を見ることができ、放射線被ばくがない点です。また、他の検査に比べて血管や血流が見やすいことで小さな病変も観察することができます。

一方で、超音波は空気がある臓器や骨、超音波を当てた部位から遠い臓器の観察は苦手です。特に膵臓は胃や腸などにある空気が邪魔をするため体の外からの超音波検査では観察しにくい臓器です。



超音波内視鏡(EUS)は内視鏡の先端に超音波装置が付いた内視鏡です。超音波内視鏡検査ではその特殊な内視鏡を口から胃や十二指腸に入れて、臓器の近くから超音波を当てることで、体の外からの超音波検査では見にくくなる膵臓、胆管などを主に観察する検査です。

現在、進行膵臓がんの5年生存率は6%前後と非常に死亡率の高い病気であるため、早期発見が極めて重要です。膵臓がんになるリスクが高い、遺伝、糖尿病、膵のう胞などがある方はEUS検査をすることをお勧めします。



膵体部がん

※胃の手術をされた方は超音波内視鏡検査を受けることができませんのでご了承下さい。

検査中は、鎮静剤を使用します。検査時間は約15分程度ですが、終了後しっかり目が覚めるまで約1時間安静にさせていただきます。また、鎮静剤の影響で眠気を催すため検査当日の乗り物の運転、高所での作業は絶対に避けていただきますようお願いいたします。



検査費用

50,710円(税込)